

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105677
法人名	有限会社 司
事業所名	グループホーム 司
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地
自己評価作成日	平成23年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年9月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは海に面して建っており、窓からは広大な瀬戸内海やその島々を眺めることができます。利用者はその雄大な景色を眺めながら、ゆったりとした時間のなかで日々の暮らしを過ごされています。職員は利用者について生活力を失わず、役割や生きがいを持ち、一人の人として自分らしく暮らしていただきたいと考えています。そのために日々の家事活動や地域の奉仕活動を共にやり、個々の行きたい所やしたいことを大切に、一緒に行える支援に取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所が立地する地区は民家が少なく、又、一人暮らしの高齢者が多い地区であることから、事業所では今年、「地域に出かけて行く」取り組みに力を入れて取り組んでおられる。小学校主催の「海岸掃除」時には、利用者6名と職員で参加して、子ども達と一緒に活動され、小学生等と顔見知りになった。後日、小学生から顔写真入りのお礼状が届き、事業所では利用者の目線の高さに合わせ掲示して、時々話題にされている。9月には、小学校の運動会の案内状が届き、職員は「一緒に掃除した子ども達の運動会を見に行きましょう」と海岸清掃時の写真を見ながら利用者を誘い、利用者は「この子らが出るんじゃね」と、見学に行くことを喜ばれたようだ。今後は、焼き芋大会・子ども獅子舞、季節の行事等、年間を通して継続した交流を予定しておられ、子どもから親へ、そして地域の方達へと交流を上げていきたいと考えておられる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 司

(ユニット名) あいユニット

記入者(管理者)

氏名 竹田 友和

評価完了日

23年 9月 1日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 運営理念の見直しを行い、より具体的にわかりやすく目指す姿を掲げるようにした。運営理念に向けて、ユニット毎に職員間で目標を立て、実践できるように取り組みを行っている。	
			(外部評価) 9月に運営理念を見直されており、管理者が案を出して、職員全員で「心想事成(しんそうきど)」と決めておられ、「相手の心を大切に喜んでいただく努力をする」ことを目指しておられる。さらに、ユニット毎に毎月、職員が目標を立てておられ、あいユニットの9月の目標は「その人らしい暮らしを続けるための日々の支援・選択肢できる声掛けを心がける」と決めて、職員で共有して取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 今年度は地域の小学校との継続的な交流を計画し、校長先生に依頼して活動を続けている。7月の海岸清掃を小学生達と一緒にいった際には、地域の方々とも一緒に行うことが出来、ホームのことを知っていただける取り組みが行えたと思う。またその様子について、地域の広報にも掲載いただき、近隣の方より声を掛けていただけることも増えている。	
			(外部評価) 事業所が立地する地区は民家が少なく、又、一人暮らしの高齢者が多い地区であることから、事業所では今年、「地域に出かけて行く」取り組みに力を入れて取り組んでおられる。小学校主催の「海岸掃除」時には、利用者6名と職員で参加して、子ども達と一緒に活動され、小学生等と顔見知りになった。後日、小学生から顔写真入りのお礼状が届き、事業所では利用者の目線の高さに合わせ掲示して、時々話題にされている。9月には、小学校の運動会の案内状が届き、職員は「一緒に掃除した子ども達の運動会を見に行きましょう」と海岸清掃時の写真を見ながら利用者を誘い、利用者は「この子が出るんじゃね」と、見学に行くことを喜ばれたようだ。今後は、焼き芋大会、子ども獅子舞、季節の行事等、年間を通して継続した交流を予定しておられ、子どもから親へ、そして地域の方達へと交流を拡げていきたいと考えておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、認知症に関わる勉強会を毎回行うようにし、地域の民生委員さんなどに伝えるようにしている。民生委員の方より、近隣の方のことで相談を受けるなど、認知症支援についての発信や相談所としての役割が発揮できつつあると思う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では地区の民生委員の方や市職員の方々だけでなく、会の内容に合わせ、消防署の職員の方に来て頂いたりしている。消防署の職員から防災指導を頂くなど、地域への情報発信を行ったり、会で出された意見を、職員会議で話し合い、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 会議では、事業所から利用者状況や行事報告を行われたり、管理者が講師となり、地域包括支援センターの担当者がアドバイザーで、認知症の勉強会を行っておられる。民生委員の方からは、地域のお祭りの情報を教えていただき参加されている。今後は、小学校の先生や地域の方等、いろいろな立場の方に参加していただけるよう声をかけたいと考えておられる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課に運営推進会議の案内を出し、毎回出席して頂いている。また他にも毎月の地区連絡会議にも参加し交流をもつことで、日常的な相談を電話等でもできるような関係性の構築に努めている。	
			(外部評価) 毎月開催される北条地区連絡会議に参加され、他事業所と交流されたり、「利用者の在宅復帰」等の支援についても相談や意見交換をされている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設の門扉は日中は常に開放し、花を飾るなどして開けた施設の雰囲気をつくろうと努力している。職員は身体拘束になる行為について学ぶ機会を持ち、施錠を含めて取り組みを行っている。しかし言葉での拘束を含め、お年寄りが本当に自由に暮らしていけるホームを目指し、継続して勉強会や日常の中で話し合いを行っていきたい。	
			(外部評価) 玄関や入り口の門扉は開放されている。事業所では、玄関先にプランターを置いてお花を育てたり、レンガで花壇を作る等して玄関周りを整備して、利用者がちょっと外に出て活動したり、過ごせる機会作りに取り組まれた。ご家族や運営推進会議のメンバーの方達からも「きれいにできているね」と声をかけていただいたようだ。5月には、「虐待について」勉強会を行い「言葉の虐待」についても勉強をされた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は虐待防止法について勉強会にて学び、虐待の防止に取り組んでいる。しかし、利用者の気持ちや要望を満たし、我慢したりすることのない生活を送るために、繰り返し勉強の機会をつくるようにしたい。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や一部の職員は制度に付いて理解しているが、全員ではない。今後勉強会などを通じて全職員が理解し、各職員が担当の利用者に制度の必要性を感じたときに、関係者と協議できるように取り組みたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は見学に来て頂いたり、訪問する等して管理者が利用者、家族と十分に協議し、不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。また、家族会や介護計画作成会議の時などにも話ができるよう努め、利用者の状態変化があった時には、管理者と臨時的介護計画作成会議を持ち、今後の対応について話し合うようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者には日々の言葉を記録に残すようにし、またアセスメントの際には個別に要望を聴き取りできるようにしている。家族は家族会や介護計画作成会議時、面会等に話す機会を設け、また玄関に意見箱を設置し、それらを運営に反映させている。また家族会の前にはアンケートを実施し、参加できない家族の意見も話し合えるようにしている。 (外部評価) 利用者のご家族に「カレンダーに予定を書いてほしい」と言われたことをきっかけに、利用者の居室のカレンダーに予定を書いて、利用者とのお話のきっかけにされている。さらに、ご家族へ毎月送付するお手紙には「来月の行事予定」を記して知らせておられる。ご家族からは、「よく布団を干してくれているのをみかけ、うれしい。」というような感想をいただくこともある。衣替えをご家族にお願いする等、ご家族が利用者とかかわる機会も作っておられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎日の申し送りで日々の悩みを聞いたり、職員個々と面接をして、意見や提案を聴き、代表者と会議して運営に反映させるようにしている。また、毎月の職員会議には代表も参加し、各業務毎の担当者と意見交換を行い、よりよい運営がなされるよう協議を行っている。	
			(外部評価) 職員が、入浴を嫌がる利用者の支援につき相談された際には、他職員から、ご本人は「散歩がお好きだから散歩の後に誘ってみたらどうか」と提案してもらい、入浴につながったようなこともあった。職員のアイデアが事業所の各所に活かされており、居間のテーブルには事業所の庭で摘んできたお花を水中花にして飾っておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所で独自のキャリアパス制度を導入し、職員が目標を持って働いたり、スキルアップに取り組めるように一緒に計画を行っている。さらに代表者は毎月の職員会議に参加したり、管理者と運営会議を行うことで、職員のやりたいことが実現できるようにしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人一人の力量に合わせた向上計画書を作成し、全体としての勉強会は毎月行っている。また日常の場面や毎日の報告の時間を活用し、アドバイスやコーチングを行うことで体験を学びとする機会を設けている。事業所外の研修も個々に年1回の参加を呼びかけ、学びの機会の確保につなげている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は積極的に他事業所との交流を進め、管理者も毎月の地区の調整会議に出席して交流を持てるよう取り組んでいる。今後地域の同業者との交流をさらに深め、ネットワークづくりや相互訪問が行えるよう取り組みたい。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者で過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけよう取り組んでいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス相談時、見学時、家族宅への訪問相談時に、家族と多く話し合う機会を持てるように取り組んでいる。その際に不安なことや要望を出来るだけ多く聞くことができるよう取り組んでいる。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者は利用相談を受けた際に、御本人の状態や家族の状況、それぞれの思いを聞くように心掛けており、状況に合わせた支援を受けることができるよう相談・助言を行っている。ケースによっては地域包括支援センターと協力し、相談支援を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の出来ること、出来ないことを把握するように努め、出来ることを一緒に行えるように取り組んでいる。今後さらに利用者の生活力の可能性を引き出し、生活の主体として力を発揮していただけるよう、個々の記録に想いや言葉を記入できるようにし、職員間で情報の共有ができるように取り組んでいる。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は面会時に近況の報告をしたり、毎月の行事、生活、受診の様子を手紙でお送りするなどして、本人の様子を知って頂けるよう取り組んでいる。さらに介護計画作成会議の際一緒に本人を支援する方法を考えていただいている。今後も継続して本人の想いを支える仲間としての関係作りを家族と築いていけるよう、話し合う機会を多く持てるようにしていきたい。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に長年入院していた病院に行きたいと希望される方に、職員が同行して受診し、馴染みの先生や同室だった方たちと再会することを楽しみにしていただいたり、故郷の島に年に数回外泊される方もおられる。今後、利用者1人1人の行きたい所やしたいことを聴き取り、お墓参りなどに行けるよう計画している。 (外部評価) ご自宅のご近所の方が訪ねて来られたり、以前のゲートボール仲間が来られて、居室でお茶を飲みながらおしゃべりされることもある。編み物が得意な方は、何ヶ月もかけてベストを編まれて、でき上がったベストを着た写真をご家族に送付された際には、ご家族がとても喜ばれたようだ。もと職員だった方が手芸の先生で週に1回来てくれており、タオルで作った犬や折り紙のお雛様、ウサギのちぎり絵等を教えてくださり、利用者は楽しみにされている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が居室で一緒に過ごす場面があったり、リビングの配置を工夫して談話される場面も増えてきており、協働して洗濯たたみや食器拭きをされる場面が多くみられる。今後も職員で場をつくり、お互いに協力したり、楽しく時間を過ごす機会を増やし、関係づくりが行われるよう支援を行うように取り組みたい。	
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居され、他の事業所へ移られる時も、情報提供を行ったり、御家族にも相談対応出来る旨を説明している。また、介護支援専門員とも情報交換を行い、サービス終了後もフォローが行えるよう取り組みを行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の記録に思いや言葉を記入する欄をつくり、日常の会話の中から出来るだけ本人の思いを聞き取るようにし、記録することで、職員間で把握できるように努めている。またアセスメントの更新時には、生活項目に分け、思いや希望を多く聴き取りできるようにアセスメントの書式を変更した。今後したいことや行きたいところへの支援を行う為の聴き取りも行う予定である。	
			(外部評価) 6月にアセスメントシートの書式を変更されており、事業所での暮らしの希望等を「食事」「日常生活」「過ごし方」「家族」「ターミナルへの希望」等の項目に沿って、より具体的に収集できるようにされている。以前はステーキが大好きだった利用者から、今回は梨と巨峰という希望が聞かれたことに、管理者は「聴く機会が増えることで、たくさん情報が得られる」と話しておられた。	今後もすべての職員で、利用者一人ひとりの思いや意向を探ることに努められ、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けられるような支援につなげていかれることが期待される。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画作成時にご家族と一緒に検討し、色々なお話を聴ける機会が得られている。今後は本人との会話の中からも必要な情報が得られるよう、個人記録を活用し記入できるように取り組んでいきたい。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートに日常の過ごし方を記入するようにし、本人の日々の過ごし方を把握している。心身の状態については、より詳細に記入できるように書式を変更し、職員間で情報を共有しやすいようにしている。日々の中で変化があったことについては、日誌に記入し、対応方法を検討して記入できるようにすることで、情報の把握が出来るようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は毎月計画作成担当者と職員で話し合い、モニタリングを行っている。そのモニタリングをもとに職員間で話し合い、介護計画の原案を作成し、原案をもとにして御家族、計画作成担当者、担当職員で協議して介護計画を作成している。介護計画はその方の想いを聴き取り、生活に即した内容となるよう注意している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、管理者と利用者個々の担当職員、その日の出勤職員で毎月モニタリングを行っておられ、それらの情報をもとにして介護計画の原案を作成して、ご家族と話し合い3ヶ月ごとに見直しておられる。利用者のご家族で意向に違いがみられる場合もあるが、アセスメントにも沿って、それぞれの気持ちを踏まえた介護計画の作成に努めておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の記録には想いや言葉を記入する欄を設け、さらにケアプランの実践内容も記入するようにしており、結果や気づき、本人の想いを記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。また介護計画を一月毎に評価する際にも個別の記録を見直しながら行うことで、新たな気づきが生まれるように取り組んでいる。今後さらに職員個々が活用できるよう勉強会を定期的に行う予定である。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況にあわせ、職員で通院の支援をしたり、希望の外出や外食を出来るようにしている。また本人や家族の要望なども取り入れながら、大切にしている場所や人に会いにいける支援を計画しており、さらなるニーズへの対応に取り組めるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の小学校と交流したり、近所の喫茶店の方や美容室の方など少しずつ地域の方々の協力が得られてきている。また近隣の社会福祉施設の配食サービスを行事の際に活用するなど、地域資源も増えてきている。今後さらに利用者が希望する生活を送ることができるよう、地域にある資源を把握し、関係性を深めていけるよう働きかけを行っていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や御家族が希望している医療機関に受診できるよう、入居時に確認をとり、連携が取れるように働きかけている。医療機関によっては訪問診療に来ていただけるところもあり、複数の医療機関との関わりを持ちながら、利用者個々の主治医と関係を築きながら、適切で本人が安心できる医療を受けることが出来るよう支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の以前からのかかりつけ医に職員が同行して受診し、ご家族にその結果を報告しておられる。利用者の状態によっては、往診に来ていただく場合もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 事業所に看護資格のある職員も配置されており、日々の健康管理や医療面での相談も行っている。また、利用者それぞれの主治医の医療機関の看護師とも気軽に相談ができ、状態変化時には相談や対応を依頼している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 利用者が病院に入院される場合には、入院時に本人に関する情報や支援方法に付いても医療機関に提供するようにし、入院中の本人のストレスや負担が軽減できるように取り組んでいる。また、主治医とも連携を図り、ホームで対応可能な段階を相談することで、早期の退院ができるよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族会にてターミナルについての説明会を行い、家族に事業所として出来ることを理解していただくようにしている。ターミナルが予測される段階の利用者に対しては、御家族と主治医、管理者が話し合うようにし、その結果を基にして職員会で話し合い、チームとしてどう支えていくか検討している。</p> <p>(外部評価) すべてのご家族に、個別に終末期のあり方についての希望を聞き取っておられ、現在は、7割ほどのご家族が「このまま、ここで最期を迎える」ことを希望されているようだ。事業所では、今後も機会を捉えてご家族の希望をお聞きして、希望に沿った支援ができるよう体制を整えていきたいと考えておられた。</p>	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に備えて、マニュアルを整備し、年に1回、勉強会で学ぶ機会をつくっている。しかし、全ての職員が完全に出来るまでには至っていない、また不安を感じている職員もいるため、個別に応急手当や初期対応が行える研修を行いたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを整備し、毎月避難訓練を実施している。海岸に面している為、津波に対する避難訓練も今年度より行っている。8月には松山市の合同避難訓練に合わせ、火災、地震、津波に対する訓練を実施した。今後も如何なる災害にも対応出来る力を維持できるように訓練を継続していきたい。	事業所が所在する地区は、津波の危険地域になっていることもあり、利用者・職員の安全を守るような対策について、今後も訓練や検討を重ねていかれることが期待される。さらに地域との協力体制についても、事業所の特性や有用性を活かして、事業所ができること等もお伝えしながら体制作りをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 事業所では毎月、火災を想定した避難訓練を実施しておられる。毎月実施することですべての職員が訓練を経験でき、又、訓練を重ねることで、利用者の誘導やユニット間の連携もスムーズに行えるようになってきている。3月の東日本大震災以後は、車で外出する際には必ずラジオを付けて、情報をいち早く得られるようにされている。さらに、運営推進会議時、消防署の方から地震や津波の対策についてアドバイスをいただき、8月以降の避難訓練は、地震・津波も想定した総合訓練を実施されている。各ユニットには、非常持ち出し袋を準備して、米や缶詰の備蓄もしておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室に訪室する際はノックをしたり、年長者としての言葉遣いに注意するなど取り組んでいる。また、その人それぞれの生活リズムや体調に合わせて支援するようにし、食事や入浴について無理強いすることがないように取り組んでいる。しかし、声の掛け方や支援の仕方等、まだまだ取り組むべき点は多く、継続して話し合いを持ちながら取り組みたい。	
			(外部評価) 職員は、利用者にかかわる際に、ボディータッチ等にも気を付けておられ、言葉だけでなく気持ちも伝わるなかかわり方に心がけられている。職員が利用者に対して「馴れ馴れしい言葉遣い」がみられた時には、管理者が注意をされている。調査訪問時、職員は利用者となりに座り、目線の高さを合わせて笑顔で会話しておられた。昼食後、利用者が下膳されるたびに職員は、笑顔で「ありがとう。」とお礼を言っておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は日々の関わりの中で、利用者が選択できるよう複数の選択肢を提案するようにしているが、一部の場面であったりする等、日常生活全般において実行は出来ていない。選択すること、決定することの大切さを職員全体で定期的に認識できるよう、繰り返し学ぶ機会を持つよう取り組みたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 時間で決めたりはせず、その時々その本人の意志を尊重するようにし、食事の時間なども利用者によって時間をずらしたり、その時にしたいことを支援する等、一人一人のペースを大事にしている。しかし、全員の希望を実現するまでには至っておらず、一人一人の希望を確認しながら実現できるよう取り組みたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝や外出時の着替えの際には、本人の意向を聞きながら決めるようにしている。また希望者には自分で衣服が買えるようにしたり、散髪にも出かけ、好みの髪型にできるよう支援を行っている。今後さらにお化粧や、行きつけの美容室に行けるように支援していきたい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に買い物をしたり、それぞれの利用者の得意とする部分で野菜を切ってもらったり、味見してもらったり、片づけをもらっている。また、ホームの畑で栽培している野菜と一緒に収穫し、食事作りを行うことで楽しみを持っていただくようにもしている。献立は毎月利用者一人一人に希望の食べたいものを聞き、食べたいものが食べられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は、野菜を洗ったりお米を研いだり、きゅうりを刻んだりして、職員と一緒に食事の準備を行っておられ、利用者と職員は、同じテーブルでお話をしながら昼食を食べておられた。職員は「お茶は温かいのと冷たいの、どっちにしますか？」と個々に希望を聞いておられた。利用者の中にはご自分のペースでゆっくり時間をかけて食事する方がおられ、職員は、食事の感想を聞かれたり、残っているものをすすめたりしながら見守っておられた。食後は、車椅子を使用している利用者のお膳を他の利用者が下膳してあげているような場面もみられ、「ありがとう」と笑顔でお礼を言っておられた。利用者が食器を拭いて食器棚に片付けておられるような場面もみられた。夏には、利用者と育てたナスやトマト、大葉が食卓に上り、皆で収穫を喜びながら食事をされたようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は主菜と副菜2品を毎食提供するようにし、1日30品目を目標して献立を立てている。利用者個別に食事量や水分量を記録するようにし、摂取量の把握に努めている。また利用者個々の好みに合わせて、飲物を変えたり、状態に合わせて食事の形態を刻みやミキサーにする等対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人一人の状態に応じて準備や声掛け、必要な方へは介助を行うようにし、就寝前には義歯の洗浄を行うようにしている。また提携歯科と協力し、年1回、歯科検診を行えるようにしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別の排泄の状況を記録することでトイレ誘導のタイミングを把握し、失敗しない排泄の支援を行っている。また利用者一人一人の状態やもっている力を把握し、必要ない時間帯は普通の下着を使用していただくなど、おむつの使用も減るよう支援を行っている。	
			(外部評価) 夜間は紙パンツを使用している利用者の方は、昼間は布パンツで過ごされており、職員が声かけしてトイレで排泄できるよう支援されている。利用者の食事量やその日の様子・気分等を踏まえ、タイミング等を見て支援されている。居室で放尿する利用者について、ご家族とお話をし、「ご自宅ではご自分の部屋の隣がトイレであった」とことを知り、その場所を探ってポータブルトイレを設置されたところ、放尿することが少なくなったような事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日午前中は乳製品や野菜ジュース等を摂取していただいたり、水分量を記録し、少ない場合には好みのものや、適時摂って頂けるよう声掛けを行い、便秘の予防を図っている。また便秘時には、すぐに薬を飲むのではなく、センナ茶を飲んで頂くなどして対応を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人の気分に配慮し、その日入浴をされるか希望を聞くようにし、気分が乗らない場合は無理に勧めることはしないようにしている。また、個人ごとにシャンプーを好みのものを使っていただくようにするなど、入浴が気持ちよく出来るよう取り組んでいる。入浴が好まれない方で、散歩に行くと入浴される情報を共有し、職員全体で行えるよう取り組みを行ったりしている。	
			(外部評価) 利用者は、それぞれ好きなシャンプーを使っておられ、中にはシャンプーの後に、ヘアパックをされる方もいる。入浴に気がすすみ難いような利用者もいるが、「今日は入る」と、ご本人が希望される時には、朝早くても入浴できるよう準備をされている。浴室にはシャワーチェアも準備されているが、「マットの上に座って体を洗う方がゆっくりできる」という方もおられ、個々の入浴の習慣を大切に支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中にそれぞれ役割活動を持って頂き、生活リズムが整うように努めている。その中で、利用者個々のその日の体調などに合わせて、自室で休んでいただいたり、リビングのソファで休まれたりされる方もおられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が薬の内容を把握できるよう、薬の説明書を個人ファイルに整理して保管している。また、薬の処方が変更された場合には申し送りやミーティングノートを活用し、全員が周知できるように取り組んでいる。薬変更後の利用者の変化については、管理者と職員で話し合い、状態変化を見逃さないようにし、適切に医療機関に連絡ができるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を聞いたり、得意としていることをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。活動が難しくなってきた方にも、台所で見ていただくなどして、参加を継続していただくようにしている。また役割のない人にも好きな食べ物を買に行くなどの楽しみのある生活を送っていただけるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎月地域のお店への外食や、近所の喫茶店にお茶を飲みに行くなど、楽しみある外出を行っている。日常的にも食材の買い物に一緒に行ったり、海岸を散歩するなど、外出の機会を持つことを大切にしている。また、馴染みの病院への受診や、ご家族と協力して故郷への外出が行えるなど、個々の希望への支援を行っており、今後他の方にもお墓参りに行くなどの計画も行っている。 (外部評価) 大衆演劇を見に出かけられたり、和食店やそば屋・ファミリーレストランへの外食、喫茶店に出かけてケーキとコーヒーを楽しんだり、毎月すべての利用者が何回か外出の機会を持てるように支援されている。又、初詣や季節のお花を見に出かけたり、小学校の運動会や買い物・ドライブ等にも出かけておられる。調査訪問時、車いすを使用している利用者が、昼食後に職員と海岸を散歩して戻って来られた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談してお金を所持されている利用者の方もおられるが、事業所で預かっている方が多い。本人の力量や希望に合わせ、小額でも持っていたり、買い物時や喫茶店の支払い時に自分で払えるような支援をできるよう取り組んでいきたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族からの電話がある方には、居室でゆっくりお話できるように取り組んでいる。毎年、年末には利用者一人一人が御家族に年賀状を送れるよう支援し、ご家族様から大変喜んで頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有空間には利用者が昔作っていたちぎり絵の作品を飾り、季節のイラストや飾り付けを行い、食堂には毎月の行事の写真や飾り、利用者同士で話を弾ませている。食堂の窓からは畑や花壇を見ることができ、季節を感じながらお話されることもある。またリビングや食堂の配置は、利用者同士が交流し易く、居心地良く過ごせるように心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自分の居室から出た廊下に椅子とテーブルが置かれていて、この場所がお気に入りの方がいる。浴室や廊下には、観葉植物や緑を多く配置しておられ、くつろげる雰囲気作りに配慮されている。居間からの海の眺めは、波の音や海の色、遠くに見える景色で季節や今日の天気・気温等が感じられ、日々の話題になっている。ご自分でさくらんぼの苗木を買って来られて、敷地に植えておられる方があり、成長を楽しみに水やり等のお世話をし、今年収穫もされた。庭には、机とベンチが置かれてあり、散歩から戻ってきた時やご家族を待つ時等に使っておられる。「階段掃除は他の人に任せられない」と言われる利用者の方もおり、ご本人に掃除をお任せしている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>廊下や玄関に椅子を置き、独りで座って落ち着かれたり、玄関の椅子に座って外を眺められるなど、利用者それぞれの過ごし方ができている。また、喫煙される方には、ベランダ口にテーブルを置き、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みのタンスや、昔作っていた作品、琴等を持ってきていただいたり、日常で制作した作品を飾る時などには、利用者に配置を聞くなど、一緒に居室作りを行うことを大事にしている。歩行が不安定になってきた方にも、少しでも自分で生活できるようにと、タンスの配置を相談しながら決めたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅からタンスやソファを持って込み使用しておられる方や、ご家族の写真や自作品を飾っておられたり、化粧品等、お気に入りのものを使っておられる方もいる。居室の窓から前の道に咲く草花や犬を連れて散歩される様子を眺めるのがお好きな利用者もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下には自室が分かりにくい利用者の方の目印になるよう自室入り口に絵を飾ったり、自宅に居た頃と同じ目印を作るなどして、本人が確認しやすい工夫をしている。また、食事が自力で食べられるようその人にあった椅子に変えてみたりテーブルの高さを調整するなど、一人一人の状態に合わせた環境作りに取り組んでいる。</p>	